

# 令和2年度 学校評価報告

草加市立両新田小学校  
(令和3年2月3日作成)

<b>1 学校教育目標</b> 進んで学ぶ子 やさしい子 たくましい子	
<b>2 重点目標・努力目標</b> ○一人ひとりを大切にし、笑顔輝く学校づくりを推進する。 ○学校の7つの定義 1 児童が中心 2 安全・安心 3 正しいことをする・正しいことが尊重される 4 学力をつけ伸ばす 5 人格の完成を目指す 6 健康な体をつくる 7 何事も徹底する ・学習指導の充実 ・豊かな心の育成 ・健康でたくましい児童の育成 ・生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実 ・安全・安心で開かれた学校づくり ・幼保小中を一貫した教育の推進	<b>3 前年度の成果と課題</b> 成果 ○児童が明るく元気に学校生活を送れている。 ○校内研修体制が整備し、計画的・組織的に教育実践を積み重ね、児童を変容させている。 ○幼保小中の円滑な接続が図られている。 ○教育環境の整備に努めている。 ○生徒指導体制が充実しており、児童・保護者に寄り添う教育活動が推進されている。 ○各文書の発行やHPの活用により、開かれた学校を推進している。 課題 ●新学習指導要領の全面実施に伴う実践 ●校内組織編制の工夫とチーム力の向上 ●学力向上のための取組の推進 ●幼保小中一貫教育の推進 ●学校運営協議会を中心とした信頼される学校づくりの推進

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○自校の課題と実態を踏まえた学校経営方針について校長通信を通して繰り返し明示し、チーム両新田小として学校教育目標の実現に向けた学校づくりを推進できた。更に文書のデジタル化を推進し、時間短縮できた。 ●校務分掌の組織の編成をさらに工夫する。コロナ禍により、一部の分掌に仕事の偏りがでた。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○国語科を重点教科として学力向上の研究を推進し、基礎学力の向上に繋げた。 ○県の学力UP事業に本校教諭が選ばれ、授業撮影を実施することができた。 ●さらに授業力を向上し、実態に応じた授業を実践し基礎基本の充実を図る。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○コロナ禍での感染症予防策を講じることができた。 ○熱中症に備え、運動可・不可マニュアルを作成した。 ○必要に応じ迅速に修繕するよう努めた。 ●保健室利用数を減少させる指導を行う。 ●危機管理マニュアルをさらに有効活用する。 ●フッ化物洗口を実施する。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報管理規定等に基づき、管理の徹底を図った。 ○授業でのICT機器の活用の推進に努め、有効に活用し、わかりやすい授業の実現につなげた。 ●安全点検についてさらに工夫する。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校だより、学年だより、学級だより等、定期的に発行し、保護者・地域への情報発信に努めた。 ○10月からHPを毎日更新できた。 ○学校運営協議会を3回実施し、意見を伺いながら教育活動を進めることができた。 ●HPの活用について組織的に迅速に取り組む。 ●地域の人材・施設をさらに有効に活用する。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○コロナ禍ではあったが、工夫して幼保小中連絡協議会を開催し、共通理解を深めることができた。 ○読書活動について連携を図りつつ、各校独自の取組を推進することができた。 ●乗り入れ授業のさらなる充実を図る。 ●「両新田中学校区3つの実行」のさらなる充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長通信を通して目標や方針を周知し、共通理解を図ることができた。</li> <li>○6月からのスタートとなったが、行事・会議の精選を図り、授業時数を確保した。教務主任が教員に見通しを示したため、落ち着いて授業に取り組めた。</li> <li>●例年の行事を行うことができなかった。</li> <li>●コロナ禍に応じ工夫した行事の実施。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科の授業改善について研究に取り組み、主体的、対話的で深い学びの授業の実現に努めた。</li> <li>○研修主任を中心に、計画的に研修を進めることができた。</li> <li>●実態に応じた授業実践をすること。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科と関連させた指導の充実を図った。</li> <li>○新型コロナ予防やいじめ撲滅に関連させ、命を大切にすることについて指導することができた。</li> <li>●「考え・議論する道徳」の視点に立った授業実践</li> <li>●さらなる家庭・地域との連携</li> </ul>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>各教科、道徳教育との関連</li> <li>中学校との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○A L Tを効果的に活用し、外国語ルームを有効利用しながら外国語・外国語活動の授業の充実を努めた。</li> <li>○外国語ルームには、単元に応じた掲示物や児童の成果物を掲示し、学習意欲の喚起に努めた。</li> <li>●中学校英語との円滑な接続に向けた取組の充実</li> </ul>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>児童会活動</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童会を主体としたあいさつ運動、いじめ撲滅への取組等を充実させた。</li> <li>○学び合い、認め合い、高め合う学級集団を形成することができた。</li> <li>●コロナ禍で工夫した学校行事の実施。</li> </ul>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が実生活から課題を見つけ、探究的な学習に取り組めた。例えば、音楽とリンクさせ郷土の音楽について調べさせることができた。</li> <li>●地域の人材、施設等を有効に活用した教育課程編成。</li> <li>●体験学習の実施。</li> </ul>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、児童理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題行動やいじめの未然防止、早期発見、迅速かつ適切な対応に努めた。保護者への対応も改善している。</li> <li>○生徒指導・いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、情報の共通理解を図った。</li> <li>●解決策を自分で考える習慣を身に付ける。</li> <li>●問題行動等について記録を残すことを習慣化する。</li> </ul>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>中学校との連携</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>家庭、地域との連携強化</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「あいさつ運動」等、中学校と連携する機会を設け、児童が進路へ関心・意欲を高めることにつながった。</li> <li>●体験活動の充実。</li> <li>●さらなる家庭・地域との連携強化。</li> </ul>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内支援委員会の回数を増やした。</li> <li>○特別支援教育コーディネーターからの指導内容の伝達により、個別にきめ細やかな指導ができ、校内支援体制が整備された。</li> <li>●教員の知識をさらに充実させ、さらに充実した指導ができるようにする。</li> </ul>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナへの予防策を講じることができた。</li> <li>○コロナ禍であったが取組を工夫し、貸し出し冊数を昨年度より上回ることができた。</li> <li>○図書館司書と連携し、充実した図書館運営ができた。</li> <li>●コロナ禍で、通常の図書館運営ができなかった。</li> </ul>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>I C T機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業において、I C T機器やデジタル教材を積極的に活用し、わかりやすい授業の実践ができた。</li> <li>○P C室を有効に活用し、児童がP Cに触れる機会を多くできた。</li> <li>●日常の記録（写真）を残す意識を高める。</li> <li>●H Pを毎日更新する。</li> </ul>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の策定</li> <li>各教科との関連</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>校内研修の充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ撲滅や各教科と関連させ、人権意識の高揚を図ることができた。また、掲示物も作成した。</li> <li>●充実した校内研修を実施し、各教員の人権意識をさらに高める。</li> </ul>	

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	学力向上	基礎学力の定着 主体的、対話的で深い学びを実現する授業改善	B	○県学では、児童の成績が確実に伸びており、基礎学力の定着が図られている。 ○児童の教育活動アンケートでは、93.2%の児童が「勉強がわかる」と回答しており、実態に応じた授業が実践できつつある。 ●県学では、低位の児童が多くみられる。また、算数の伸びがあまり見られない。次年度は低学年の基礎学力の定着をさらに図ることに注力する。 ○年間を通して国語科の授業について意図的、計画的に研修を実施し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に向け、取り組めた。 ○低・中・高学年それぞれで1人授業者を立て、定期的に研究授業を実施し、研究協議を教師全員で実施した。 ●児童一人ひとりの実態を把握し、児童個人に応じた課題を提示し学習に取り組ませ、全体の学力の底上げを図る。
	読書活動	貸し出し冊数 ビブリオバトルへの取組 読み聞かせ等ボランティア活動	A	○貸し出し冊数は、12,309冊（12月末）を記録し、前年度を約700冊上回る事ができた。 ○3年～6年生児童は、ビブリオバトルに挑戦し、各クラスで大変意欲的に取り組むことができた。代表者2名を決め、研修会での発表ビデオを撮影した。 ○11月から読み聞かせボランティアによる読み聞かせを実施した。児童は真剣に取り組むことができた。 ○季節に応じた掲示物をボランティアの方に作成してもらい掲示した。 ●発達段階に応じた読書活動の取組・推進。
	学校応援団の取組	安全・安心のための取組の充実 学習支援等の充実	B	○児童の登下校については、保護者や見守り隊の方たちに協力いただき、児童の安全確保ができています。交通事故件数0である。 ●コロナ禍のため、例年に行っている学習ボランティアの要請ができなかった。 ●学校応援団の人材を十分に確保し、それらの人的財産を教育活動に計画的に有効に活用していく。

### 5 総合評価（学校関係者評価を含む）

・学校の7つの定義を提示し、学校教育目標の具現化実現を目指した。コロナ禍で教育活動の充実に努めたことにより、全体的に児童が安全に落ち着いて学校生活を送ることができている。特に「児童の安全確保」を最優先事項とし、組織的に感染症防止対策を講じることができた。

・国語科の研究を軸に校内研修体制の整備を図った。コロナ禍で工夫しながら計画的・組織的に教育実践を積み重ね、学力向上を目指し教育活動に取り組んだ。特に国語科の学力が伸びている（県学力学習状況調査）。

・特別支援教育については、特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会を年に5回開催し、個に応じた具体的な指導内容を提示し実践した。

・学校図書館教育については、コロナ禍で工夫しながら読書貯金、読み聞かせ、ビブリオバトル等の取組を実施した。貸し出し冊数は昨年度より約700冊増加し、12,000冊を超えた。

・各行事の実施については、新型コロナウイルス感染防止のためほとんど中止とした。特に体育的行事はすべて中止としたため、保護者対象教育活動アンケートでは「体力の高まり」については肯定的回答が75%となった。

・社会に開かれた学校づくりを推進するため、学校・学年・学級だより、学校HP、学校メールによる積極的な発信に努めた。保護者・地域の声に耳を傾け、学校に寄せられる要望等に誠実に対応し、本校教育活動への保護者・地域の理解と協力を得ることに繋がっている。

### 6 次年度の改善策

・授業規律を確立し授業改善をさらに図り、学力を向上させる。個に応じた指導を充実させ、一人ひとりの学力を伸ばすことに努める。低学年の学力向上にもさらに力をいれていく。次年度は算数科の授業改善を中心に研修を進めていく。

・教員一人ひとりの生徒指導事案への対応する力を向上させる。併せて、生徒指導事案の記録と保存についても組織的に取り組み、情報共有できる仕組みを構築する。

・コロナ禍で工夫して行事を実施する。特に体育的行事については、規模を小さくする、分散する、密を避けるなど工夫して実施する。

・両新田中学校区が目指す子ども像の実現に向け、15年間を見通した教育課程の見直しなどをさらに進め、教員間の共通理解を深めながら取組を継続していく。

・学校運営協議会の実施回数を増やし、学校・家庭・地域が相互理解を深め、双方向に協力し合い、社会に開かれた学校づくりをさらに推進する。

・地域の人材や施設等をさらに有効活用し、教育力の向上を図れるよう教育課程の編成について工夫する。

